

《聖ルペルトゥスの詩編》

Psalterium Sancti Ruperti, Salzburg, Stiftsbibliothek, St. Peter, Cod. a I 0

安藤さやか

作品概要

| | |
|--------|---|
| 名称 | 《聖ルペルトゥスの詩編》 |
| 所蔵先 | ザルツブルク、ザンクト・ペーター修道院図書館、Cod. a I 0 |
| サイズ | 38×33 mm、 118 葉 (13 帖／1×unio + 1×ternio + 2×quaternio + 10×quaternio / 多数の帖で増減あり) |
| 言語・書体 | ラテン語、カピタリス・ルスティカ (標題)、カロリング小文字 (本文) |
| 内容 | 序文 (fols. 1–5)、『ガリア詩編 (プサルテリウム・ガリカヌム)』115 編 (fols. 6–117) |
| 挿絵 | 1 点の全頁大挿絵、3 点の全頁大イニシアル |
| 注文主 | 不詳 |
| 来歴 | Salzburg, Schatzkammer der Sakristei von St. Peter (16. Jahrhundert –) / Salzburg, Stiftsbibliothek St. Peter (1869–) |
| 制作年代 | 9 世紀第 3 四半期 |
| 制作地 | 北東フランス? |
| 写字生 | 不詳 |
| 挿絵画家 | 不詳 |
| ファクシミリ | <i>Psalterium Sancti Ruperti: Vollständige Faksimile-Ausgabe der Handschrift a I 0 der Stiftsbibliothek St. Peter in Salzburg</i> (Codices selecti phototypice impressi, v. 112), Graz, Akademische Druck- u. Verlagsanstalt, 2007. |



《聖ルペルトゥスの詩編》と 17 世紀以降の保管容器

作品解説および先行研究

ザルツブルクのザンクト・ペーター修道院図書館には、カロリング朝期に制作された 1 点の小型の挿絵入り詩編写本が収蔵されており、銀製の留め具と金の箔押しのある、革張りの書物型木製小箱に収められて保管されている。同写本は、聖ルペルトゥス (660–710 年) が用いた、或いは、聖ルペルトゥス自身によって書かれたと伝えられたことから、《聖ルペルトゥスの詩編》の名で呼ばれる。聖ルペルトゥスは生地ヴォルムスで司教を務めた後、バイエルン公テオド 2 世によるバイエルンでの布教活動の為に、696 年にはザルツブルクの初代司教、およびザンクト・ペーター修道院長の座に就く¹。

聖ルペルトゥスが本写本を所有していたという伝承は、本写本自体への書き込みと、ザンクト・ペーター修道院の財産目録に見出すことが出来る。まず、本写本の第 1 葉には、「司教聖ルペルトゥスの詩編の小

本 (Manuale Psalterii Sancti Ruperti episcopi)」という後代の書き込みが残されている²。中世の同修道院図書館の目録には本写本についての記録は残されていないが、1509年の同修道院聖具室目録 (ザルツブルク、ザンクト・ペーター文書館、HsA 481) には、「聖ルベルトウスの詩編を収容する、金銀で縁取られた四角い箱 (item arcula quadrata deaurato argento circumtexta, contiens Sancti Rudberti psalterium)」と記されており、遅くとも16世紀初頭までには、本写本が聖ルベルトウスのものと見做されるに至ったことが分かる³。更には、後に同地で修道院長を務めたアマンド・パハラー (在位 1657–1673 年) の手による、修道院聖具室の目録 (ザルツブルク、ザンクト・ペーター文書館、HsA 19) には、「5、聖ルベルトウスの詩編、小さな書物、聖ルベルトウスの手によって書かれたものと思われる (5. Manuale psalterium S. Ruperti, minutus libellus, putaturque S. Ruperti manu scriptum)」という記述があることから、本写本を筆写したのが他ならぬ聖ルベルトウスであるとされたことも窺える⁴。

しかし、書体やテキスト、彩飾の構成から、本写本の制作年代は聖ルベルトウスの生きた時代より1世紀以上後のカロリング朝期に帰されている。本写本に用いられているカロリング小文字は8世紀後半以降に誕生したものであり、従って、制作年代の上限は8世紀後半以前には遡らない。古書体学者B. ビショッフは本写本の書体を9世紀第3四半期のものとし、制作地を現在の北東フランスと推定している⁵。美術史家F. ミューテリッヒによれば、詩編を三分割し挿絵や装飾頁で区切る本写本の構成もまた、カール大帝 (在位 768–814) 時代の宮廷派による初期作例《ダグルフ詩編》(ウィーン、国立図書館、Cod. Vind. 1861) や、カロリング朝ランス派の《ドゥース詩編》(オックスフォード、ボドレイアン図書館、Ms. Douce 59) 等、カロリング朝期の彩飾詩編写本に典型的な構成方法である⁶。同氏は、カール禿頭王 (在位 843–877 年) の時代のトゥール派やフランコ=サクソン派の作例に近縁性を見出し、特に、869年以前に制作年代が帰される《カール禿頭王の詩編》(パリ、国立図書館、Ms. lat. 1152) と本写本との間の挿絵やイニシャルの類似を指摘している⁷。

初期中世の詩編挿絵については豊富な研究史があるにも拘らず⁸、人物像を含む挿絵が巻頭のダヴィデ像1点のみの本写本は、これらの先行研究で言及されることが殆ど無かった。モノグラフィックな研究としては、2007年のファクシミリの解説巻を除いて、ミューテリッヒによる論文が挙げられるのみである⁹。同氏は挿絵入り詩編写本としての位置付けに加え、初期中世の現存例では類を見ない小型のフォーマットに、聖ルベルトウス崇敬の強いザルツブルクで本写本が果たしたであろう聖遺物としての機能を見出している¹⁰。小型写本の機能に注目した研究としては、J. ヴザンの論文等や、折しも本写本のファクシミリ刊行と同年に開催されたニューヨークでの展覧会のカタログが挙げられるが、初期中世の写本に関する言及は少ない¹¹。ランス周辺で9世紀第3四半期頃に制作年代が帰される《カール禿頭王の祈祷書》(ミュンヘン、レジデンツ宝物庫、ResMü Schk 4 WL)¹²等の、同時代の小型彩飾写本との比較分析から、制作経緯や用途について検討される必要がある。更には、小型の個人用時祷書の制作が増加する後期ゴシックの彩飾写本文化に対する先駆的性格という観点からも、本写本の判型に着目した研究には発展の余地があるだろう。

* 付記:本研究報告は、日本科学協会2019年度笹川科学研究助成による研究成果の一部である。

註

- 1 聖ルベルトウスの生涯とザルツブルクに於ける聖ルベルトウス崇敬については、以下を参照されたい。EDER, Petrus OSB: Der heilige Rupert und "sein" Büchlein, in: Facs. *Psalterium Sancti Ruperti*, 2007, S. 11–25; EDER, Petrus OSB/KRONBICHLER, Johann: *Hl. Rupert von Salzburg 696–1996*, Katalog der Ausstellung im Dommuseum zu Salzburg und

- in der Erzabtei St. Peter, Salzburg 1996.
- 2 MÜTHERICH, Florentine: Inhalt, in: Facs. *Psalterium Sancti Ruperti*, 2007, S. 45.
- 3 EDER 2007, S. 18.
- 4 EDER 2007, S. 24. 尚、エーダーによれば、この17世紀の目録内では、1509年の目録に記録のある小箱には言及されておらず、本写本を取る容器は修道院長パフラー自身によって現在の書物型の木製小箱に代えられたようである。
- 5 BISCHOFF, Bernhard: *Paläographie des römischen Altertums und des abendländischen Mittelalters*, Berlin 1986, S. 43.
- 6 MÜTHERICH 2007, S. 28.
- 7 MÜTHERICH 2007, S. 58.
- 8 例えば以下が挙げられる。TIKKANEN, Johan Jakob: *Die Psalterillustration im Mittelalter*, Helsinki 1895–1900, Nachdr. Soest 1975; MÜTHERICH, Florentine: Die verschiedenen Bedeutungsschichten in der frühmittelalterlichen Psalterillustration, in: *Frühmittelalterliche Studien* 6, 1972, S. 232–244; VAN DER HORST, Koert/ NOEL, William/ WÜSTEFELD, Wilhelmina C. M.: *The Utrecht Psalter in Medieval Art: Picturing the Psalms of David*, Tuurdijk 1996; BÜTTNER, Frank O. (ed.): *The Illuminated Psalter: Studies in the Content, Purpose and Placement of its Images*, Turnhout 2004.
- 9 MÜTHERICH, Florentine: Der Psalter von St. Peter in Salzburg, in: *Studies in Carolingian Manuscript Illumination*, London 2004, pp. 540–550.
- 10 MÜTHERICH 2007, S. 32–33.
- 11 VEZIN, Jean: Les livres utilisés comme amulettes et comme reliques, in: *Wolfenbüttler Mittelalter-Studien*, Bd. 5, 1992, pp. 101–115; EDISON, Julian I. / BROMER, Anne: *Miniature Books: 4000 Years of Tiny Treasures*, New York 2007.
- 12 《カール禿頭王の祈祷書》(ランス周辺、846–869年頃)の寸法は135×102 mmであり、《聖ルベルトゥスの詩編》より大きいものの、カロリング朝期の詩編写本の中では小型の部類に位置付けられる。同写本の写本学的基礎情報については、以下に記載されている。KOEHLER, Wilhelm/ MÜTHERICH, Florentine: *Die karolingischen Miniaturen*, Bd. 5, *Die Hofschule Karls des Kahlen*, Berlin 1982, S. 75f.

[図版出典]

EDER 2007.

挿絵一覧表

註) 本挿絵表のテキストはMÜTHERICH 2007に基づく。主題とモチーフの表記は、同論文を元に筆者によって補足説明を加えたものである。

| quire | psalm | fol. | initial | テキスト | 主題・モチーフ |
|-------|--------|------|---------|--|--------------------------------------|
| 2 | 序文 | 2 | - | - | 竖琴を奏でるダヴィア王の全頁大挿絵 |
| | インキビット | 5v | - | INCIPIT LIBER PSALMORUM EMENDATUS A SANCTO HIERONIMO PRESBITERO | バルメット文による全頁大の枠取り内に、緋紫色の背地上に金字で書かれた銘文 |
| | 第1編 | 6 | B | Beatus vir | 全頁大のバルメット文の枠取りと組紐文によるイニシアルB |
| 7 | 第51編 | 55v | - | LI IN FINEM INTELLECTUS DAVID CUM VENIT DOEC IDUMEUS ET ADNUNTIAVIT SAUL ET DIXIT VENIT DAVID IN DOMO ACHIMELECH | バルメット文による半頁大の枠取り内に、緋紫色の背地上に金字で書かれた銘文 |
| | | 56 | Q | Quid gloriatur | 全頁大のバルメット文の枠取りと組紐文によるイニシアルQ |
| 11 | 第101編 | 110 | - | CI ORATIO PAUPERIS CUM ANXIUS FUERIT ET CORAM DOMINO EFFUDERIT PRECEM SUAM | バルメット文による半頁大の枠取り内に、緋紫色の背地上に金字で書かれた銘文 |
| | | 110v | D | Domine | 全頁大のバルメット文の枠取りと植物文によるイニシアルD |